

# 副甲状腺ホルモン（PTH）製剤と活性型 ビタミンD<sub>3</sub>製剤（エルデカルシトール）の 併用投与による骨形成作用

北海道大学大学院歯学研究院硬組織発生生物学教室<sup>1)</sup>，自衛隊朝霞駐屯地医務室歯科<sup>2)</sup>

長谷川 智香(助教)<sup>1)</sup> 山本 知真也<sup>2)</sup> 宮本 幸奈(大学院生)<sup>1)</sup> 邱 紫璇(大学院生)<sup>1)</sup>  
網塚 憲生(教授)<sup>1)</sup>

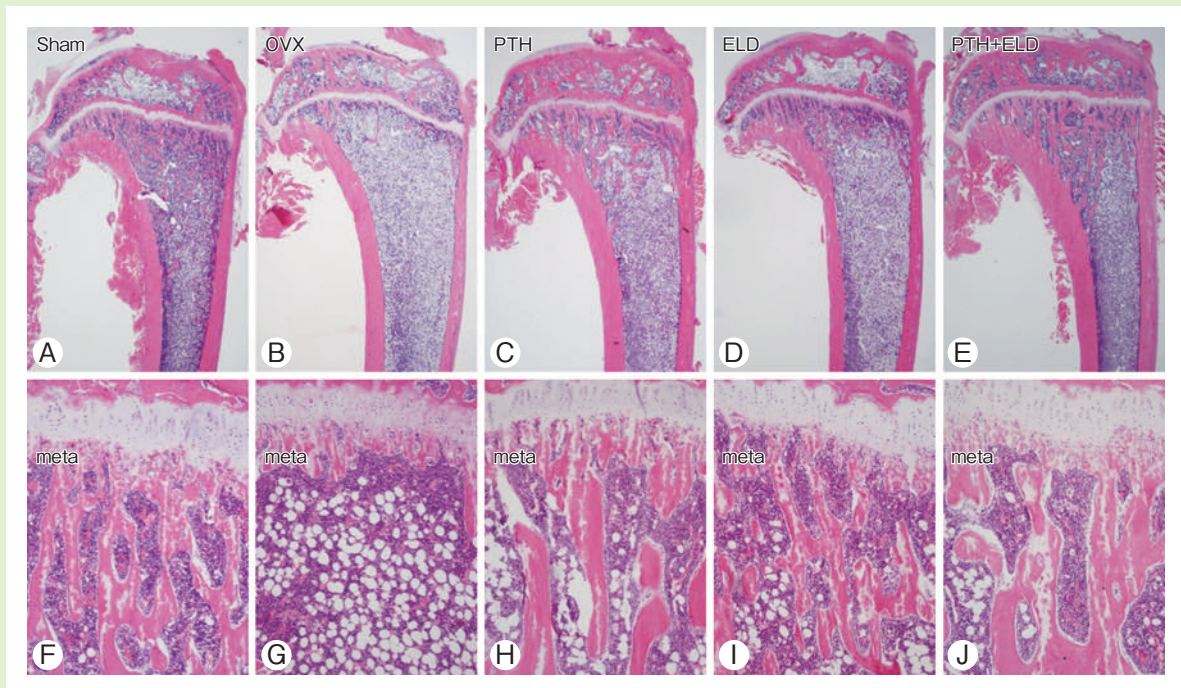


図1 薬剤投与と卵巣摘出(OVX)ラット脛骨のHE染色像

8週齢でOVXを行い4週間経過後の雌性ラットに，vehicle (OVX群：OVX)，PTH (PTH単独投与群：PTH)，エルデカルシトール (エルデカルシトール単独投与群：ELD)，PTHおよびエルデカルシトール (併用投与群：PTH+ELD)を投与し，8週間経過後の脛骨におけるHE染色像。下段は，骨幹端部の一部拡大像。

OVX群では，Sham群と比較して骨幹端の骨梁が著しく減少するが(図B，G)，薬剤投与によりすべての群で骨梁が増加する(図C～E，H～J)。

meta：骨幹端

(文献4)より改変引用)